

IV-12

長崎の水際線の変遷と埋め立て景観の類型

（株）日本設計 都市計画本部

正会員 横松 宗治

長崎大学 工学部社会開発工学科教授・工博 正会員 後藤恵之輔

1. 研究の目的

長崎は16世紀中葉の開港以来、港湾機能の強化と都市居住域の拡大を求めて海面の埋め立てが進んでいった。現在長崎港岸沿いには、自然海岸はほぼ皆無である。長崎港を囲む港湾都市長崎の都市景観は、このウォーターフロントが形成している。本論文では、長崎の都市形成とウォーターフロント景観の変遷の歴史を辿るとともに、この都市域拡大のための埋め立てについて、景観的な視点から類型化を試みる。

2. 長崎のウォーターフロントの変遷

(1) 開港前の長崎の景観…1571年以前（図-1）

開港以前の長崎の地形を直接的に説明する資料は乏しい。図-1は、現状の地形と地名からの類推である。長崎港には、主に2本の河川（浦上川、中島川）が流入する。共に河口部は干潟、アシ原であったものと想定される。博多方面からの長崎街道が、日見峠を越え、長崎港に達する地点に長崎村があった（現在の蛍茶屋付近）。港岸沿いに大浦川を遡ると、浦上の村に至る（現在の浦上駅付近）。後に、「長崎」の中心となる岬の先端には森崎権現の杜があった。

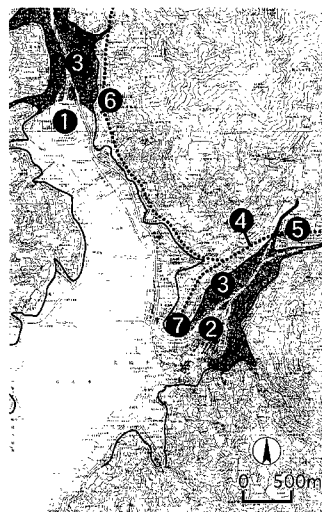


図-1 近世開港以前 ①浦上川 ②中島川 ③干潟 ④長崎街道 ⑤長崎村 ⑥浦上村 ⑦森崎権現杜

(2) ポルトガル教会領があった時期…1571年～1630年頃（図-2）

1571年、ポルトガル貿易港は、平戸から横瀬浦を経て長崎に移された。森崎権現の地には教会が設置される。岬の先端の高台約八千坪が開放され、六つの町（六町）が建てられた。16世紀末、キリシタン追放後六町は天領となり、その北側に内町が形成される。中島川河口部の浅瀬は埋め立てられ、船着き場をもった町屋が形成される。1614年の大禁教の後、幕府によって積極的に仏教の導入が図られた。1615年頃から10数年間に、風頭山裾におよそ10カ所の仏教寺院が建設された。寺院とその門前町”のセットが、約10組並列する街区を構成した。

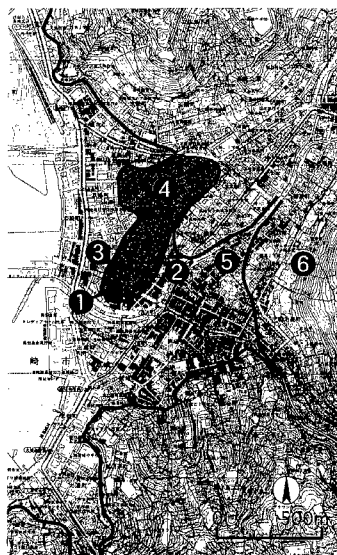


図-2 ポルトガル教会領の時代 ①教会 ②六町 ③埠頭 ④内町 ⑤中島川河口部 ⑥仏教寺院

(3) 近代開港まで…1630年頃～1850年頃（図-3）

キリスト教禁教に伴い、ポルトガル人（後にオランダ人）を収容する「出島」が築造された（1636年）。1641年、外国船の入港は長崎に限定され



図-3 1700年頃の長崎 ①出島 ②新地蔵所 ③中島川河口部 ④奉行所西役所

Key words; 都市景観史、埋め立て、長崎、景観の類型

（東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー、電話 03-5325-8929、FAX 03-5325-8957）

る。1702年、唐貿易品の倉庫として「新地蔵所」が築造される。中島川河口部はほぼ港湾関係の用地となった。岬の先端（教会の跡）は奉行所西役所となり、貿易を統括する。この期間の長崎は、中島川流域が積極的に埋め立てられ都市化された。

（4）近代開港期の長崎…1850年頃～1910年頃（図-4）

1859年の正式開港直後から、外国人居留地（1899年条約改正により居留地の制限は撤廃）として大浦海岸が埋め立てられ、英国を中心とした西洋諸国の領事館、銀行などの業務用地として供用された。船舶の係留場所である片壁～「遊歩場」（水辺のプロムナード）～大通り～公共建築用地の構成は、「バンド」として、英国のインド植民地経営を経由して、中国のイギリス租界に導入された上海、横浜などにも見られる近代開港都市の水際景観の典型である。

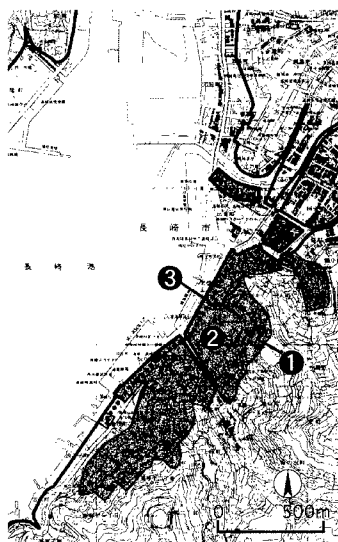


図-4 1870年頃の長崎 ①外国人居留地 ②大浦海岸埋め立て地 ③遊歩道

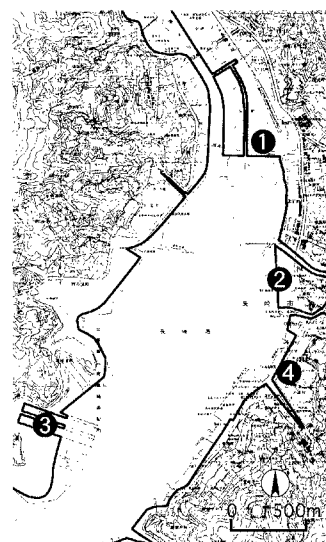


図-5 1930年頃の長崎 ①魚市場 ②出島岸壁 ③三菱大ドック ④日隠し倉庫群

（5）現在の長崎…1910年頃～現在（図-5）

浦上川河口部に漁港と魚市場が設けられ、九州第一の水揚げ港となる。上海、台湾の航路が開設され、出島岸壁が完成した。大形船岸壁として、第二次大戦終戦まで維持される。対岸（湾西岸）には三菱造船所の巨大ドックが築造される。戦艦の建造に合わせて大浦海岸の倉庫群が建設される。この「日隠し倉庫」によって、バンドを構成した海岸通りは、完全に海面から遮蔽された。この倉庫街は、現在進められている新たなウォーターフロント開発によって解体されることになる。

3. 埋め立て景観の類型

17世紀からの長崎港の埋め立てを、その景観より以下の4種に類型化することができる。（1）内浦+水路型（図-6）…浅瀬の内浦を埋め立て、中央を水路化する。中島川沿い、大浦初期、浦上のケース。（2）前付け型（図-7）…水際線を前出しする。大浦中期、出島岸壁、元船初期のケース。（3）突堤型（図-8）…水際線から突堤状に突き出す。元船岸壁、常盤・出島地区のケース。（4）出島型（図-9）…海中に人工島を形成する。出島、新地蔵所のケース。

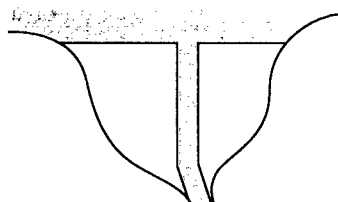


図-6 内浦+水路型

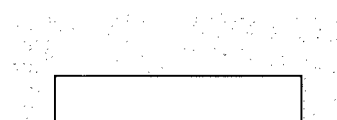


図-7 前付け型



図-8 突堤型

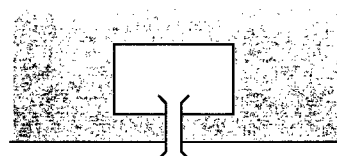


図-9 出島型

4. おわりに

本論文は、窪田陽一教授による横浜景観史（第4回日本土木史研究発表会論文集「横浜港における景観構造の変遷に関する研究」）に触発され、長崎都市景観形成史の第一歩を試みたものである。後段の埋め立て景観の類型化は、著者らがこの7年間携わる「長崎港常盤・出島地区計画」を都市景観的に位置づける緒論である。